

資 料

横浜市救急医療検討委員会

平成 19 年 8 月 7 日

資料集 目次

- 1 人口動態 平成 17 年の死亡率
- 2 医療機関数・医師数の推移（全科）
- 3 医療機関数・医師数の推移（2）（循環器科、心臓血管外科、神経内科、脳神経外科）
- 4 横浜市の人口推移表・横浜市将来推計人口
- 5 循環器系の疾患 医療機関別、疾患別救急搬送実績
- 6 循環器疾患救急搬送件数【曜日一時間帯一搬送時間 クロス集計】
- 7 横浜市の心疾患救急医療体制（図）
- 8 横浜市病院群輪番制運営費補助金交付要綱（抜粋）
- 9 平成 18 年度 心疾患輪番病院取扱い患者数
- 10 医療及び医療機関に関する情報の公表（厚生労働省資料【抜粋】）
- 11 脳卒中の医療連携（未定稿）（厚生労働省資料【抜粋】）
- 12 脳卒中の医療体制における各機能類型（未定稿）（厚生労働省資料【抜粋】）
- 13 要会五度別にみた介護が必要となった主な原因の構成割合
- 14 日本脳卒中学会医療向上・社会保険委員会が提案する t-PA 静注療法の施設基準
- 15 日本脳卒中協会 パンフレット

人口動態 平成17年の死亡率

5大死因順位では、全国順位と本市の順位は同じ結果となっている。

第1位悪性新生物、第2位心疾患、第3位脳血管疾患、第4位肺炎、第5位不慮の事故である。

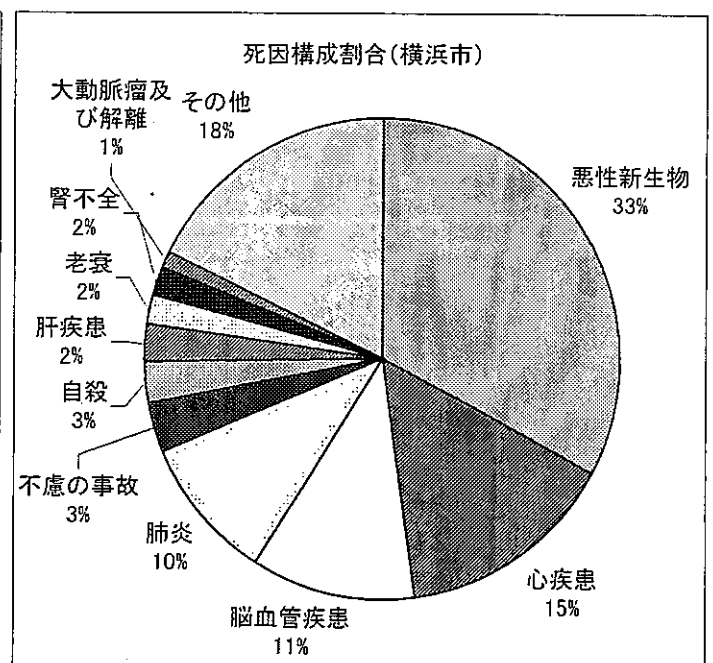
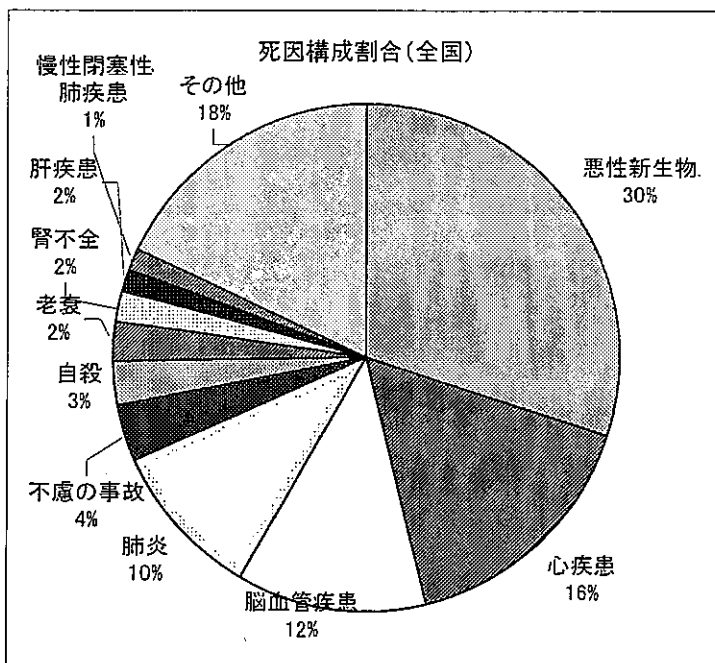
平成17年死因順位（第10位まで）別死亡数・死亡率（人口10万対）・構成割合

死因	全国				横浜市				
	高齢化率			20.10%	高齢化率			16.90%	
	死亡数	死亡率	死亡総数	死因に占める割合(%)	死亡数	死亡率	死亡総数		
			に占める				に占める		
割合(%)			割合(%)						
全死因	—	1,083,796	858.8	100	全死因	—	23,333	661.3	100
悪性新生物	(1)	325,941	258.3	30.1	悪性新生物	(1)	7,642	216.6	32.8
心疾患	(2)	173,125	137.2	16	心疾患	(2)	3,495	99.1	15
脳血管疾患	(3)	132,847	105.3	12.3	脳血管疾患	(3)	2,622	74.3	11.2
肺炎	(4)	107,241	85	9.9	肺炎	(4)	2,253	63.9	9.7
不慮の事故	(5)	39,863	31.6	3.7	不慮の事故	(5)	780	22.1	3.3
自殺	(6)	30,553	24.2	2.8	自殺	(6)	654	18.5	2.8
老衰	(7)	26,360	20.9	2.4	肝疾患	(7)	571	13.9	2.4
腎不全	(8)	20,528	16.3	1.9	老衰	(8)	490	11.3	2.1
肝疾患	(9)	16,430	13	1.5	腎不全	(9)	399	16.2	1.7
慢性閉塞性肺疾患	(10)	14,416	11.4	1.3	大動脈瘤及び解離	(10)	308	8.4	1.3

注：（ ）内の数字は、死因順位を示す。

「心疾患」は、「心疾患（高血圧性を除く）」である。

横浜市のデータは横浜市人口動態統計資料(衛研HP)より



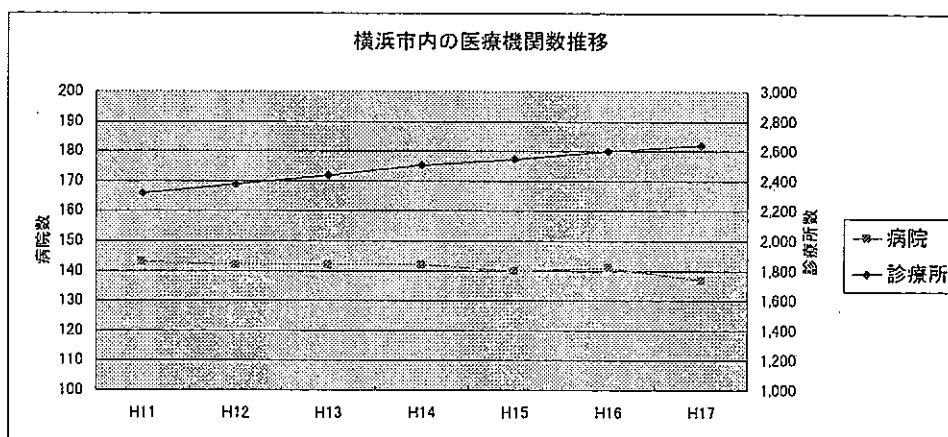
医療機関数・医師数の推移

1 医療機関数の推移

各年10月1日現在

		11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
全国	病院	9,286	9,266	9,239	9,187	9,122	9,077	9,026
	診療所	91,500	92,824	94,019	94,819	96,050	97,051	97,442
横浜市	病院	143	142	142	142	140	141	137
	診療所	2,317	2,376	2,438	2,508	2,547	2,603	2,641

出典：医療施設（静態・動態）調査＜厚生労働省＞



2 全科医師数の推移

各年12月31日現在

	12年	13年	14年	15年	16年	17年
全国	243,201	—	249,574	—	256,668	—
<増加率>	100.0		102.6		105.5	
横浜市	5,476	—	5,823	—	5,957	—
<増加率>	100.0		106.3		108.8	

注：平成12年度の数値を100とする

出典：医師・歯科医師・薬剤師調査＜厚生労働省＞

横浜市		<内訳>				
病院	3,194	—	3,499	—	3,527	
診療所	2,282	—	2,324	—	2,430	
計	5,476	—	5,823	—	5,957	

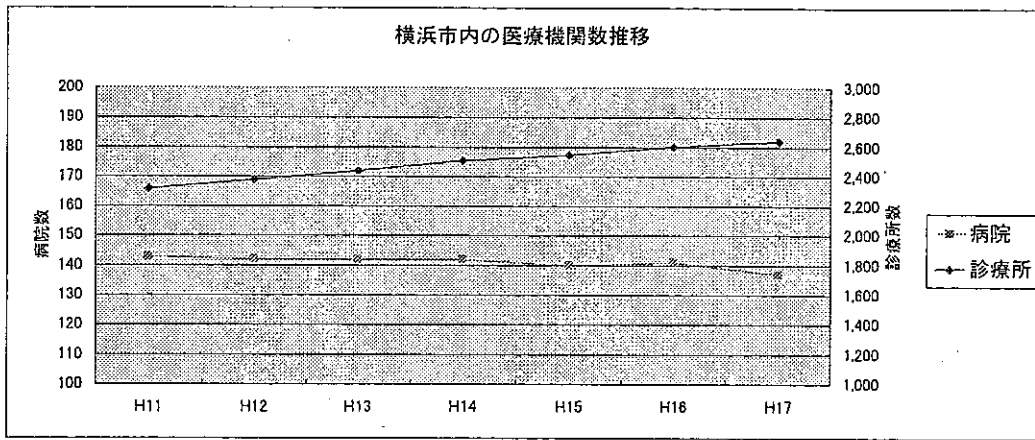
医療機関数・医師数の推移(2)

1 病院数の推移(診療科別)

各年10月1日現在

		11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
全国	循環器科	3,316	3,349	3,406	3,553	3,594	3,674	3,762
	心臓血管外科	677	702	731	774	793	814	841
	神経内科	1,427	1,494	1,547	1,637	1,694	1,742	1,828
	脳神経外科	2,269	2,284	2,304	2,365	2,381	2,395	2,426
横浜市	循環器科	64	65	67	69	69	72	72
	心臓血管外科	14	14	16	16	18	19	20
	神経内科	21	24	25	27	27	31	32
	脳神経外科	52	51	53	54	53	54	53

出典：医療施設(静態・動態)調査<厚生労働省>



2 診療科別の推移

各年12月31日現在

			8年	10年	12年	14年	16年
全国	総数	循環器科	6,719	7,445	7,685	8,381	9,009
		心臓血管外科	2,656	2,923	3,038	3,242	3,458
		神経内科	5,634	5,871	6,050	6,241	6,287
		脳神経外科	2,027	2,243	2,409	2,513	2,632
	病院(再掲)	循環器科	5,752	6,420	6,611	7,151	7,648
		心臓血管外科	2,495	2,730	2,823	2,995	3,171
		神経内科	5,247	5,422	5,498	5,588	5,542
		脳神経外科	1,999	2,220	2,378	2,485	2,591
横浜市	総数	循環器科	141	138	157	180	164
		心臓血管外科	64	67	81	82	74
		神経内科	142	147	140	145	137
		脳神経外科	49	58	49	62	51
	病院(再掲) <small>※括弧内は総数に占める割合</small>	循環器科	124	122	142	151	136
		心臓血管外科	60	63	76	77	69
		神経内科	130	136	127	129	119
		脳神経外科	49	58	49	62	51

出典：医師・歯科医師・薬剤師調査<厚生労働省>

横浜市の人口推移表

各年1月1日現在

		平成 12年	平成 13年	平成 14年	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年
総人口 <指数>		3,397,895 <100.0>	3,432,703 <101.0>	3,469,108 <102.1>	3,503,182 <103.1>	3,532,691 <104.0>	3,559,867 <104.8>	3,584,923 <105.5>	3,606,797 <106.1>
内 訳	0～14歳	476,064 (14.0%)	474,885 (13.8%)	477,876 (13.8%)	480,682 (13.7%)	482,521 (13.7%)	485,986 (13.7%)	482,489 (13.5%)	485,251 (13.5%)
	15～64歳	2,465,462 (72.6%)	2,462,811 (71.7%)	2,471,559 (71.2%)	2,476,133 (70.7%)	2,482,226 (70.3%)	2,483,226 (69.8%)	2,457,963 (68.6%)	2,447,424 (67.9%)
	65歳～	452,941 (13.3%)	483,216 (14.1%)	507,882 (14.6%)	534,576 (15.3%)	556,153 (15.7%)	578,864 (16.3%)	610,290 (17.0%)	639,941 (17.7%)
	年齢不詳	3,428 (0.1%)	11,791 (0.3%)	11,791 (0.3%)	11,791 (0.3%)	11,791 (0.3%)	11,791 (0.3%)	34,181 (1.0%)	34,181 (0.9%)

注1：各年のデータは、1月1日現在の推計人口。

注2：年齢階層別人口における（ ）内の数字は、各年度の総人口に占める割合。

注3：総人口の指数は平成12年度の数値を100とする。

横浜市将来推計人口

(人)

		2005年	2010年	2015年	2020年	2025年
人 口	総数	3,587,503 100.0%	3,706,600 100.0%	3,768,540 100.0%	3,785,066 100.0%	3,764,098 100.0%
	0～14歳	484,895 13.5%	482,342 13.0%	447,206 11.9%	396,610 10.5%	350,178 9.3%
	15～64歳	2,500,120 69.7%	2,490,427 67.2%	2,448,863 65.0%	2,448,216 64.7%	2,434,461 64.7%
	65歳以上	602,488 16.8%	733,831 19.8%	872,471 23.2%	940,240 24.8%	979,459 26.0%

下段：構成比率

※横浜市都市経営局 将来推計人口(H12年基準)

全国将来推計人口

(千人)

		2005年	2010年	2015年	2020年	2025年
人 口	総数	127,768 100.0%	127,176 100.0%	125,430 100.0%	122,735 100.0%	119,270 100.0%
	0～14歳	17,585 13.8%	16,479 13.0%	14,841 11.8%	13,201 10.8%	11,956 10.0%
	15～64歳	84,422 66.1%	81,285 63.9%	76,807 61.2%	76,635 60.0%	70,960 59.5%
	65歳以上	25,761 20.2%	29,412 23.1%	33,781 26.9%	35,899 29.2%	36,354 30.5%

下段：構成比率

※国立人口問題研究所(H18.12推計)

循環器系の疾患 医療機関別、疾患別救急搬送実績

(単位:人)

疾患分類	この分類に含まれる疾患の例	H15	H16	H17	H18
その他の型の心疾患 (I30-I52)	心膜炎、非リウマチ性弁障害、 肺動脈弁障害、心筋症、不整 脈、心不全 等	2,505	2,874	3,433	3,506
虚血性心疾患 (I20-I25)	狭心症、急性心筋梗塞 等	2,128	2,067	1,913	1,689
高血圧性疾患 (I10-I15)	高血圧および、それに伴う心不 全・腎不全 等	1,541	1,225	1,034	878
循環器系のその他及 び詳細不明の障害 (I95-I99)	低血圧、オベ後、心血梅毒 等	1,950	1,082	825	585
動脈、細動脈及び毛 細血管の疾患 (I70-I79)	大動脈解離、大動脈瘤、抹消 血管疾患、動脈塞栓・血栓	227	259	239	248
静脈、リンパ管及びリ ンパ節の疾患、他に 分類されないもの (I80-I89)	静脈炎、下肢の静脈瘤、食道 静脈瘤、痔核 等	46	59	74	68
肺性心疾患及び肺循 環疾患(I26-I28)	肺塞栓、肺高血圧 等	35	42	29	20
リウマチ性心疾患等 (I00-I09)		6	2	2	4
小計		8,438	7,610	7,549	6,998
脳血管疾患 (I60-I69)	くも膜下出血、脳内出血、脳梗 塞 等	6,354	5,852	5,764	5,497
計		14,792	13,462	13,313	12,495

平成17年(1月～12月) 循環器疾患救急搬送件数【曜日-時間帯-搬送時間 クロス集計】

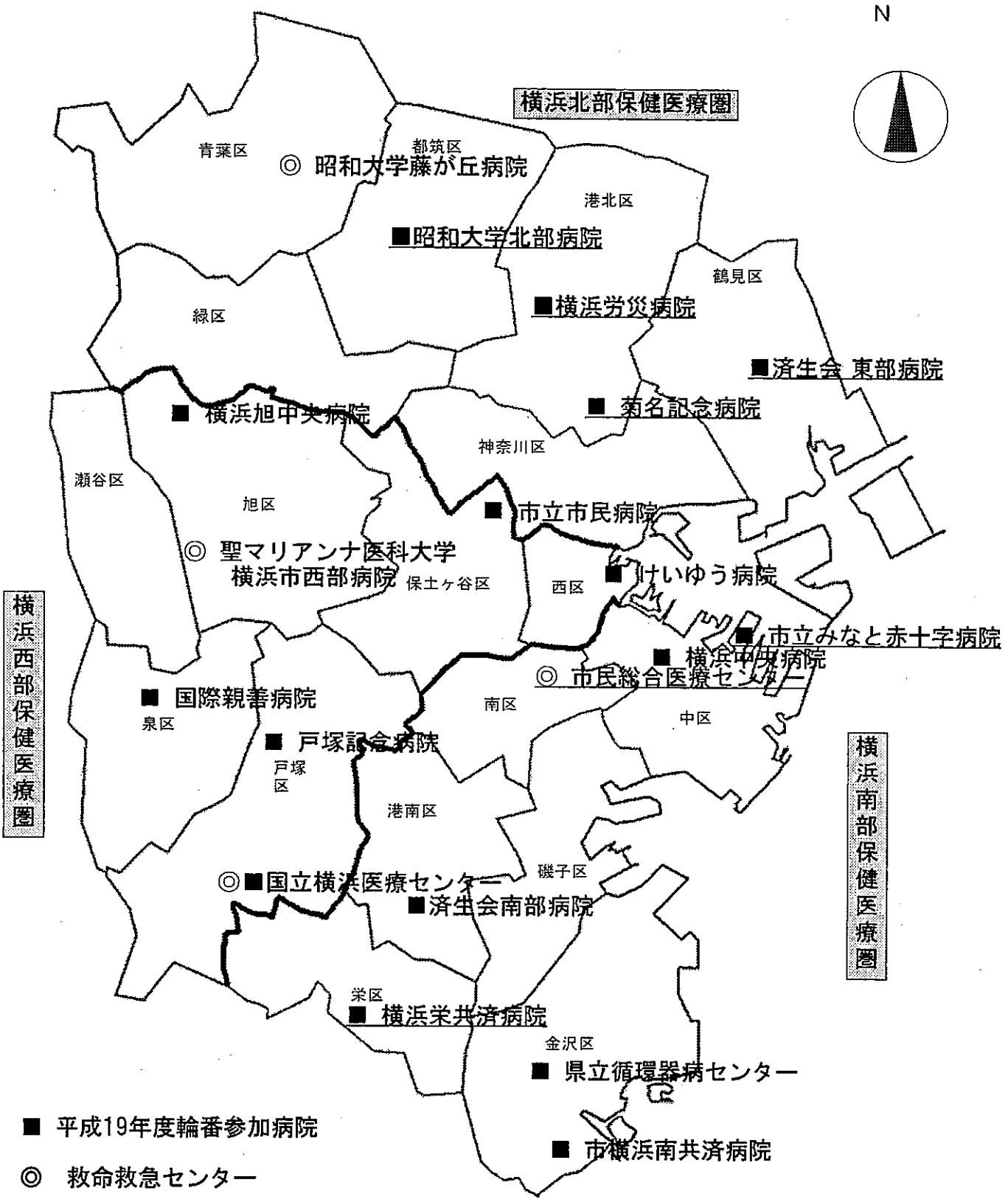
曜日分類	時間帯	搬送時間	脳血管疾患 (I60-I69)	リウマチ性 心疾患等 (I00-I09)	高血圧性 疾患 (I10-I15)	虚血性心 疾患 (I20-I25)	肺性心疾 患及び肺 循環疾患(I 26-I28)	その他の 型の心疾 患 (I30-I52)	動脈、細動 脈及び毛 細血管の 疾患 (I70-I79)	静脈、リン パ管及びリ ンパ節の 疾患、他に 分類されな いもの (I80-I89)	循環器系 のその他 及び詳細 不明の障 害 (I95-I99)	小計
平日・土曜	時間内(8時～17時59分)	<30分	1,680		214	420	9	861	53	19	228	1,804
		<1時間	1,022	1	86	251	4	376	46	6	113	883
		<2時間	42		3	16		12	1	2	4	38
		<3時間	1						1			1
	小計		2,745	1	303	687	13	1,249	101	27	345	2,726
	時間外(深夜以外) (18時～21時59分、 翌6時～7時59分)	<30分	666		209	252	2	475	27	8	88	1,062
		<1時間	592		83	171	3	255	21	4	81	618
		<2時間	29		2	7		11	2	2	4	28
		<3時間									1	1
	小計		1,287	1	294	430	5	741	50	14	174	1,709
	深夜(22時～翌5時59分)	<30分	262		132	232	1	442	19	8	81	915
		<1時間	360		95	205	4	311	16	6	62	699
		<2時間	23		1	4		14	2		2	23
		<3時間	2								1	1
小計		647		228	441	5	767	37	15	145	1,638	
平日・土曜	総計		4,679	2	825	1,558	23	2,757	188	56	664	6,073
日曜祝日	時間内(8時～17時59分)	<30分	350		53	93		200	11	7	43	407
		<1時間	257		25	64	1	94	4		42	230
		<2時間	10		1	2		4	2	1		10
		<3時間						1				1
	小計		617		79	159	1	299	17	8	85	648
	時間外(深夜以外) (18時～21時59分、 翌6時～7時59分)	<30分	166		48	51	3	108	12	2	25	249
		<1時間	138		25	34		69	9	3	18	158
		<2時間	7					5	3			8
	小計	<3時間	311		73	85	3	182	24	5	43	415
	深夜(22時～翌5時59分)	<30分	67		40	64		116	5	4	17	246
<1時間		87		16	47	2	76	5	1	16	163	
<2時間		3		1			3				4	
小計		157		57	111	2	195	10	5	33	413	
日曜祝日	総計		1,085		209	355	6	676	51	18	161	1,476
総計		5,764	2	1,034	1,913	29	3,433	239	74	825	7,549	

時間外の割合(平日・土曜昼間以外) 52.4% (3,019件)
1時間以上要した割合 2.0% (117件)

63.9% (4,823件)
1.5% (115件)

横浜市の心疾患救急医療体制

N



別表第1（第4条第2項関係）

参加基準

参加診療科目	参加基準
内科 (内)	① 内科医が常勤医として勤務していること。 ② 輪番日に内科医が当直していること。 ③ 内科病床を有し、入院ベッドが確保されていること。 ④ 緊急検査として一般検査・X線検査が行えること。
小児科 (小)	① 小児科医が常勤医として勤務していること。 ② 輪番日に小児科医が当直していること。 ③ 小児科病床を有し、入院ベッドが確保されていること。 ④ 緊急検査として、一般検査、胸部X線検査等が行えること。
外科 (外)	① 外科医が常勤医として勤務していること。 ② 輪番日に外科医が当直していること。 ③ 外科病床を有し、入院ベッドが確保されていること。 ④ 常時、全身麻酔による開腹手術等を行っていること。 ⑤ 急性腹症について、緊急開腹手術が行えること。 ⑥ 緊急検査として、一般検査、X線検査、心電図検査、腹部超音波検査等ができること。 ⑦ 麻酔担当の医師がオンコール又は呼び出し可能な状況にあること。 ⑧ 入院を要する脳神経外科、整形外科関係の疾患及び外傷について、初期対応及び3次医療機関への転送判断が行えること。
急性心疾患 (心)	① 輪番日に循環器専門医が当直していること。 ② 緊急検査として、心電図検査、心臓超音波検査ができること。また、除細動器が使用できること。 ③ 緊急シネアングイオグラフィーが行えること。 ④ 緊急IABP、緊急ペーシングが行えること。 ⑤ 緊急開胸手術が行えること。 ⑥ ICU、CCUが設置されていること。

※ 一般検査は、血球計算、生化学検査、血沈測定、尿検査等をいう。

別表第2（第5条第2項関係）

地域割

ブロック	行政区
北部	鶴見、神奈川、港北、緑、青葉、都筑
西部	西、保土ヶ谷、旭、戸塚、泉、瀬谷
南部	中、南、港南、磯子、金沢、栄

平成18年度 心疾患輪番病院取扱い患者数

2007/7/11

(人)

○北部医療圏 (4)	平成18年度				平成17年度			
	患者数		一日当		患者数			
	夜間	休日	夜間	休日	夜間	休日	夜間	休日
A 病院	33 (13)	4 (3)	1.4 (0.5)	1.0 (0.8)	51 (14)	3 (2)		
B 病院	— —	— —	— —	— —	— —	— —		
C 病院	61 (27)	— —	2.3 (1.0)	— —	38 (16)	— —		
D 病院	17 (6)	5 (1)	0.7 (0.2)	1.0 (0.2)	15 (9)	1 (1)		
E 病院	6 (6)	0 (0)	0.3 (0.3)	0.0 (0.0)	— —	— —		
小計	117 (52)	9 (4)	1.2 (0.5)	0.9 (0.4)	104 (39)	4 (3)		

○西部医療圏 (6)	平成18年度				平成17年度			
	患者数		一日当		患者数			
	夜間	休日	夜間	休日	夜間	休日	夜間	休日
F 病院	24 (8)	10 (6)	1.0 (0.3)	0.9 (0.5)	27 (9)	6 (3)		
G 病院	6 (1)	— —	0.2 (0.0)	— —	13 (2)	1 (1)		
H 病院	0 (0)	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0.0)	— —	— —		
I 病院	10 (3)	— —	0.8 (0.2)	— —	20 (4)	— —		
J 病院	24 (10)	— —	1.4 (0.6)	— —	25 (10)	— —		
K 病院	8 (8)	1 (1)	0.8 (0.6)	0.5 (0.5)	4 (4)	— —		
小計	72 (30)	11 (7)	0.6 (0.2)	0.4 (0.2)	89 (29)	7 (4)		

○南部医療圏 (6)	平成18年度				平成17年度			
	患者数		一日当		患者数			
	夜間	休日	夜間	休日	夜間	休日	夜間	休日
L 病院	12 (9)	1 (0)	0.9 (0.7)	0.2 (0.0)	19 (11)	4 (3)		
M 病院	66 (24)	22 (10)	1.8 (0.6)	1.6 (0.7)	91 (38)	18 (5)		
N 病院	31 (11)	2 (0)	1.1 (0.4)	0.5 (0.0)	20 (5)	8 (1)		
O 病院	30 (15)	— —	1.8 (0.9)	— —	19 (10)	— —		
P 病院	11 (7)	— —	0.6 (0.4)	— —	4 (2)	1 (1)		
Q 病院	67 (17)	35 (15)	2.5 (0.6)	2.2 (0.9)	64 (28)	18 (7)		
R 病院	— —	— —	— —	— —	1 (0)	— —		
小計	217 (83)	60 (25)	1.5 (0.6)	1.5 (0.6)	218 (94)	49 (17)		

合計	406 (165)	80 (36)	1.1 (0.5)	1.1 (0.5)	411 (162)	60 (24)		
----	-----------	---------	-----------	-----------	-----------	---------	--	--

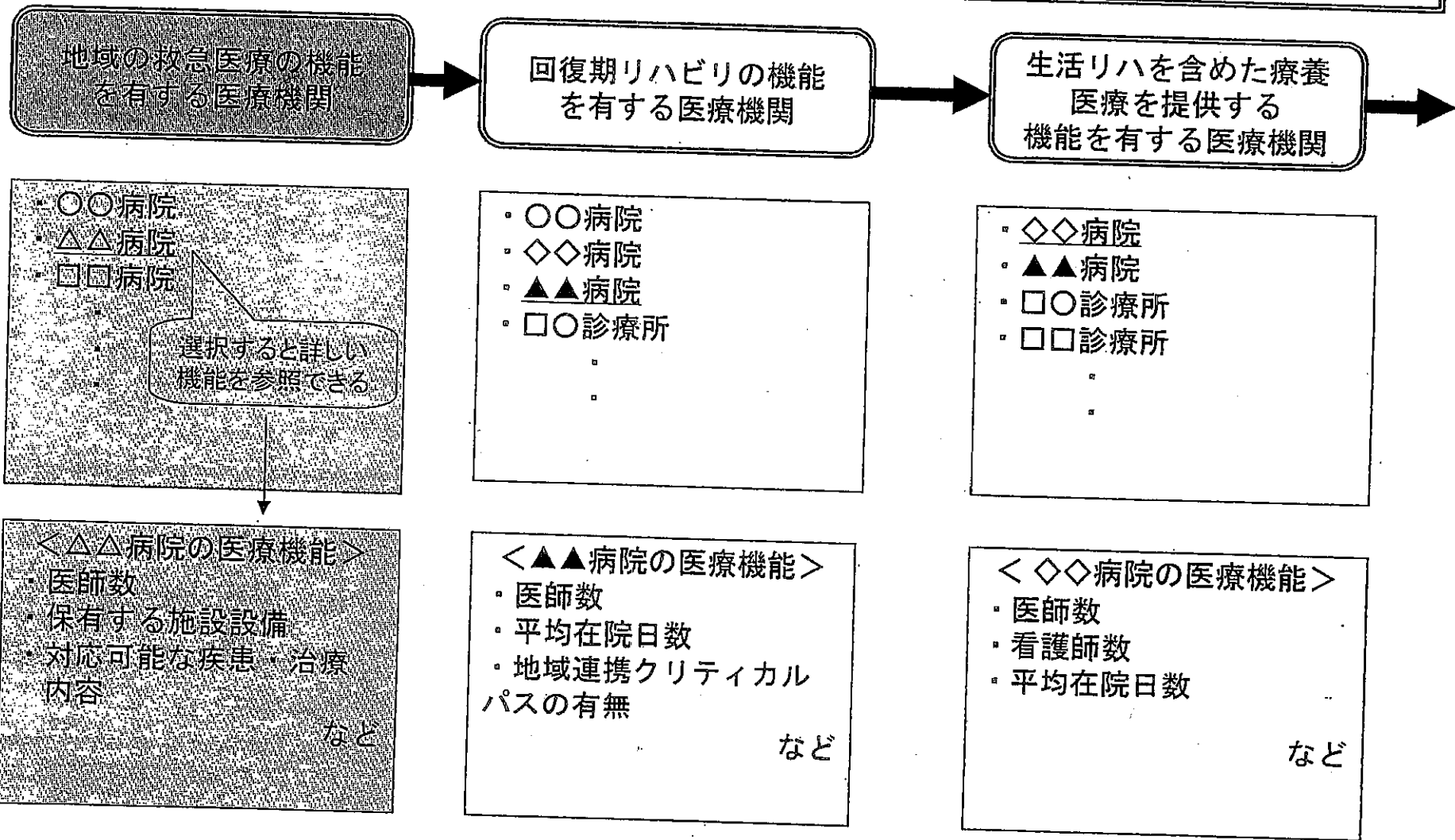
()内、入院数

()内は、19年度の輪番参加病院数

E病院は、平成18年度まで、R病院は、平成17年度まで参加

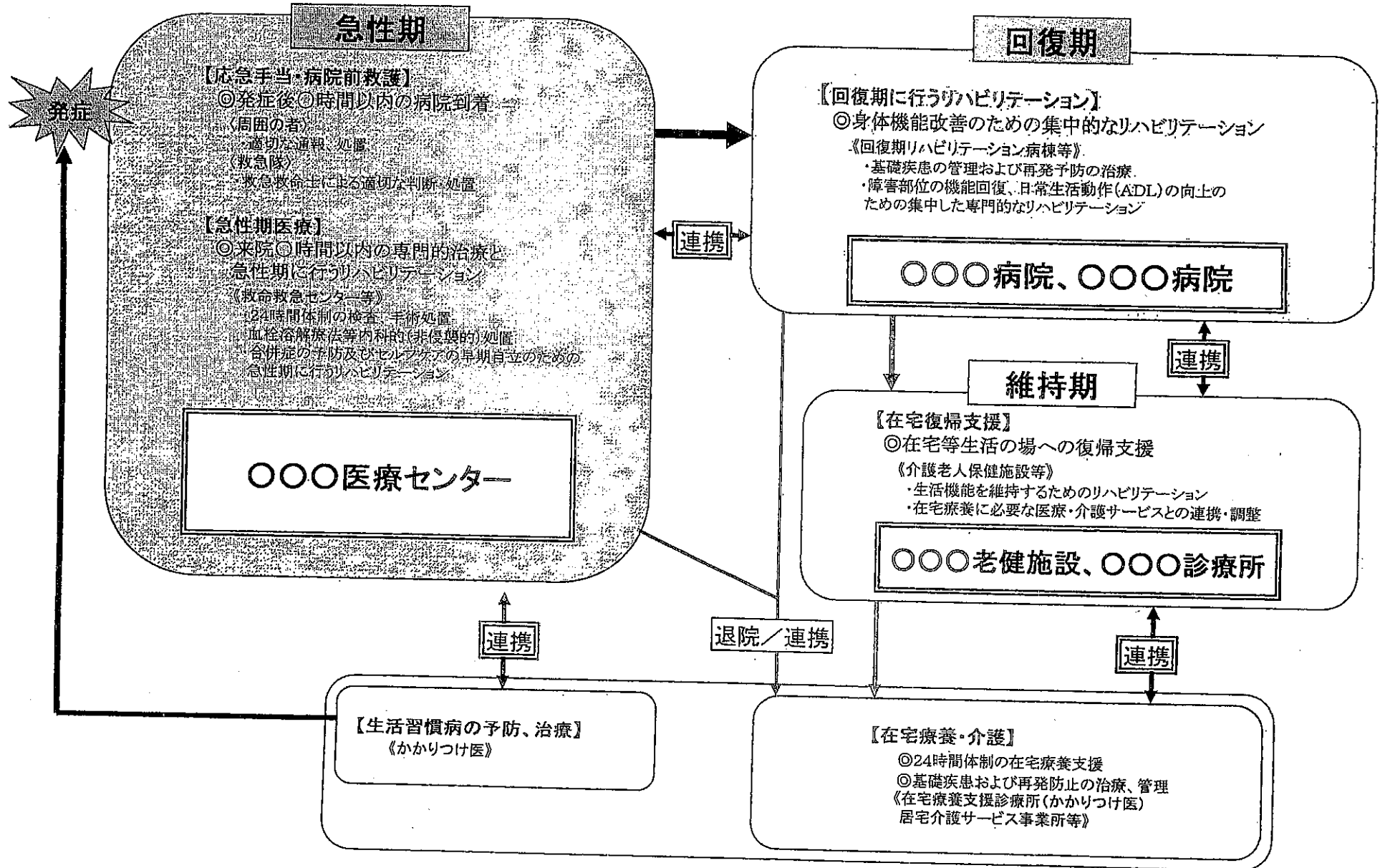
医療及び医療機関に関する情報の公表

○各地域の医療機関の機能連携を具体的に明らかにした医療計画を十分住民に周知します。
 ○それぞれの医療機関の機能を都道府県が整理し、住民にわかりやすく公表するようにします。



脳卒中の医療連携 (未定稿)

《地域連携クリティカルパスによる医療の提供》



脳卒中の医療体制における各機能類型 (未定稿)

機能	【急性期】		
	生活習慣病の予防・治療	応急手当・病院前救護	急性期医療
目標 (例)	高血圧症等脳卒中リスクの管理による予防	発症後3時間以内の治療開始	
求められる主な役割 (例)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎疾患の管理 ○ 発症予防・早期発見に関する啓発 ○ 初期症状出現時における周囲者の対応に関する教育 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者の周囲にいる者(バイスタンダー)による適切な処置 ○ すみやかに急性期医療提供施設に搬送する処置 ○ 救急救命士による適切な処置 ○ 救急隊による適切な急性期医療提供施設への速やかな搬送。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ CTまたはMRIによる検査が24時間可能 ○ 専門的知識を有する医師が常駐する等脳卒中が疑われる患者を24時間体制で受け入れ ○ 来院後○時間以内に脳卒中の専門的治療が可能 ○ 急性期に行うリハビリテーションを積極的に実施
医療提供施設等 (例)	○ かかりつけ医	<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者の周囲にいる者(バイスタンダー) ○ 救急救命士 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 救命救急センター ○ 脳卒中専門病棟を有する医療機関 ○ 急性期に行うリハビリテーションが可能な急性期医療機関
実施する診療・処置等 (例)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎疾患の管理 ○ 発症予防・早期発見に関する啓発 ○ 初期症状出現時における周囲者の対応に関する教育 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者の周囲にいる者(バイスタンダー)による適切な処置 ○ すみやかに急性期医療提供施設に搬送する処置 ○ 救急救命士による適切な処置 ○ 救急隊による適切な急性期医療提供施設への速やかな搬送 ○ 住民への啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ○ CTまたはMRIによる検査 ○ 脳神経外科的治療 ○ rt-PAによる脳血栓溶解療法 ○ 合併症の予防及びセルフケアの早期自立のための急性期に行うリハビリテーション
連携 (例)			<ul style="list-style-type: none"> ○ かかりつけ医と…患者の基礎疾患、治療経過及び再発予防の治療等の情報共有 ○ 回復期に行うリハビリテーションの医療提供施設と…(退院前)ケアカンファレンスの開催
指標 (例)	○○○○○率 ○○%	△△△△△ △△時間	□□□□□ □□時間 ●●●●● ●●% ▲▲▲▲▲ ▲▲% ■■■■■ ■■■%
医療提供施設名	○○○○○医院 △△△△△クリニック □□□□□医院 ●●●●●クリニック ▲▲▲▲▲医院		■■■■■センター ◇◇◇◇◇病院

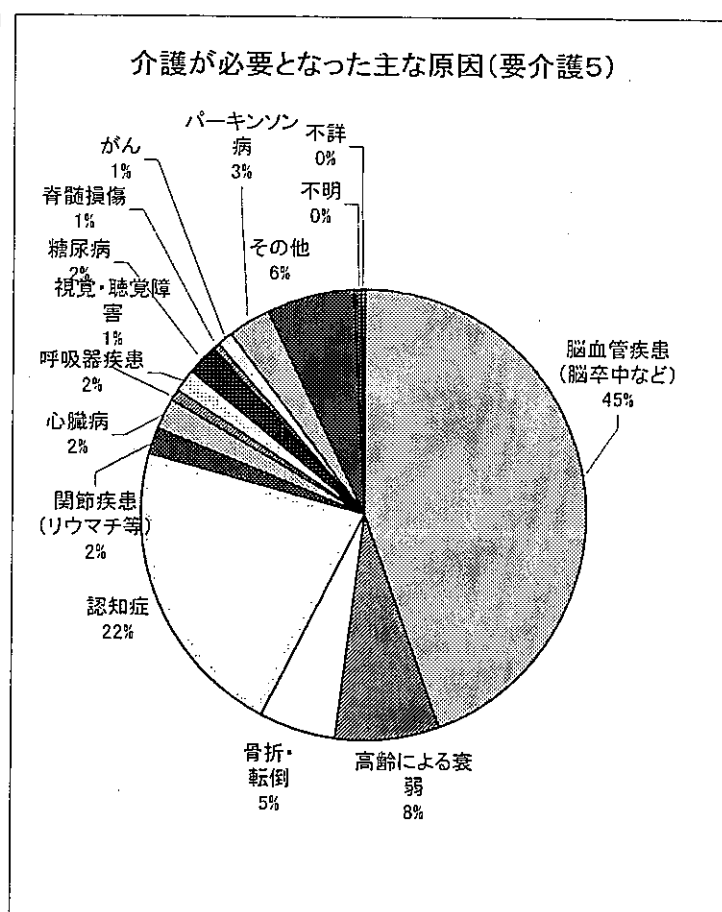
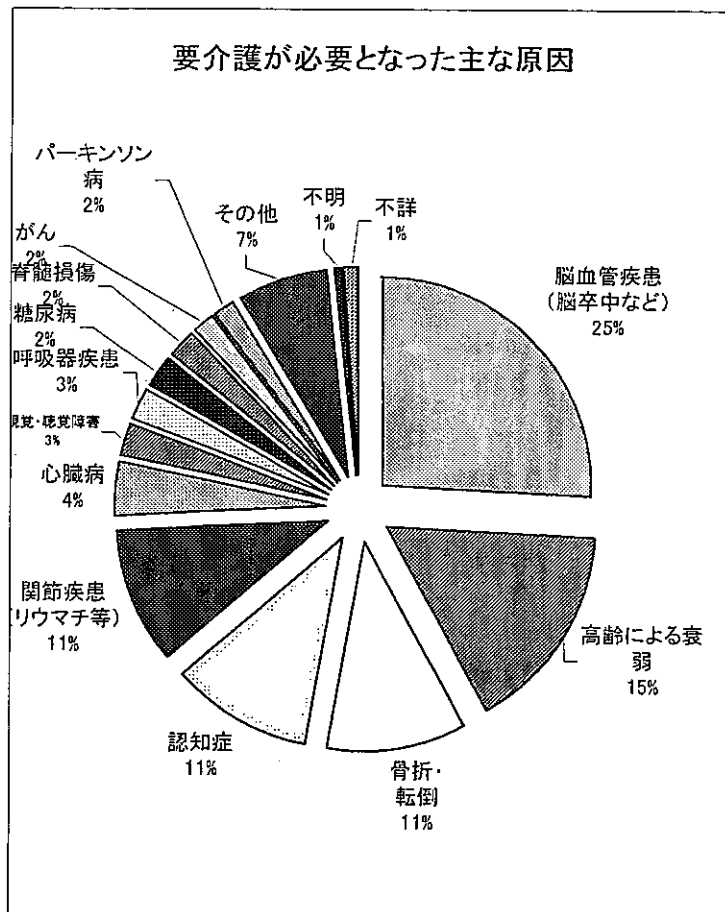
要介護度別にみた介護が必要となった主な原因の構成割合

(全国)

要介護度	総数	脳血管疾患 （脳卒中 など）	高齢による 衰弱	骨折・ 転倒	認知症	関節疾患 （リウマチ等）	心臓病	視覚・聴覚 障害	（肺気腫、肺炎等） 呼吸器疾患	糖尿病	脊髄損傷	がん （悪性新生物）	パーキンソン 病	その他	不明	不詳
総数	100	25.7	16.3	10.8	10.7	10.6	4.1	2.7	2.5	2.4	2.2	1.7	1.6	6.9	0.8	1.0
要支援者	100	11.8	22.2	10.5	3.3	17.5	6.5	4.7	2.9	3.2	2.7	1.7	0.9	8.5	1.8	1.9
要介護者	100	29.1	14.9	10.9	12.5	8.9	3.7	2.2	2.4	2.3	2.0	1.7	1.8	6.4	0.5	0.6
要介護1	100	21.9	16.7	13.1	7.0	14.3	5.0	3.1	3.1	2.5	2.5	1.9	1.3	6.3	0.5	0.9
要介護2	100	29.6	16.0	10.3	12.1	6.4	3.7	2.3	1.9	2.9	2.4	1.8	1.5	8.0	0.8	0.5
要介護3	100	33.6	13.3	11.9	18.6	3.7	1.9	0.9	2.7	1.8	1.3	2.1	1.8	5.6	0.4	0.5
要介護4	100	36.4	14.7	7.3	18.9	5.6	2.4	1.6	1.2	1.3	1.3	0.6	3.3	5.0	0.1	0.3
要介護5	100	44.5	7.6	5.5	21.7	2.1	2.0	0.9	1.8	2.1	0.6	1.2	3.1	6.3	0.5	0.3

総数には、要介護度不詳も含む。

厚生労働省：平成16年国民生活基礎調査



日本脳卒中学会医療向上・社会保険委員会が提案する rt-PA 静注療法の施設基準

1. CT または MRI 検査が 24 時間実施可能であること
2. 集中治療のため、十分な人員（日本脳卒中学会専門医などの急性期脳卒中に対する十分な知識と経験をもつ医師を中心とするストローク・チーム）及び設備（SCU またはそれに準ずる設備）を有すること
3. 脳外科的処置が迅速に行える体制が整備されていること
4. 実施担当医が日本脳卒中学会の承認する本薬使用のための講習会を受講し、その証明を取得すること（ただし、発症 24 時間以内の急性期脳梗塞をたとえば年間 50 例程度の多数例を診療している施設の実施担当医については、本薬使用前の講習会の受講を必須とはしないが、できるだけ早期に受講することが望ましい）

【参考】脳卒中ケアユニット入院医療管理料（1 日 5,700 点、14 日まで）施設基準（抜粋）

- ① 病院の治療室を単位として行う
- ② 当該治療室の病床数は 30 床以下
- ③ 必要な医師（5 年以上の神経内科または脳神経外科経験）が常時配置されている
- ④ 看護師の数は 3 : 1 以上
- ⑤ 常勤の OT または PT が 1 名以上配置
- ⑥ 脳卒中患者を概ね 8 割以上入院させる治療室
- ⑦ CT、MRI、脳血管造影等が常時行える体制
- ⑧ 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）又は（Ⅱ）の届出

脳卒中が疑われたら すぐに医師の診断を受けましょう。



☎ ⇒ “かかりつけ医” または “119番” へ

脳卒中では以下のような症状が突然起こります

- ▶ 片方の手足・顔半分の麻痺・しびれが起こる
(手足のみ、顔のみの場合もあります)
- ▶ ロレツが回らない、言葉が出ない、他人の言うことが理解できない
- ▶ 力はあるのに、立てない、歩けない、フラフラする
- ▶ 片方の目が見えない、物が二つに見える、視野の半分が欠ける
- ▶ 経験したことのない激しい頭痛がする



〈かかりつけ医の電話番号〉*日ごろからメモしておきましょう*

監修：



社団法人

日本脳卒中協会

The Japan Stroke Association

<http://jsa-web.org/>